

平成 16 年度 中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会
第 2 回 人工海浜専門部会

第 1 回 人工海浜専門部会における指摘事項とその対応について

(1/2)

区分	議事・指摘事項	対応等
海浜安定・海浜形状	1 ラインモデルの計算式の K1、K2 の値を決定に至る検討の過程を示し、根拠が妥当であるということを報告書に残すこと。(K1: 漂砂量(スピード) K2: 遮蔽物の変化による影響)(栗山委員)	漂砂量係数 K1, K2 の決定過程及び再現計算結果(試行計算結果)について整理し、最終報告書に添付する。
	海浜の安定性については、左右対称形にこだわる必要はなく、景観上の問題やロングビーチ、視界を妨げない広い水平線といったビーチの特性を踏まえ、安定したビーチを検討するべきである。(入江座長)	Silvester による安定海浜などの既往研究を参考にし、ロングビーチ(ビーチ途中に突堤などの構造物を設置しない)形状、視界を妨げない(離岸堤などを設けない)形状になる、人工海浜形状の提案及び安定形状の検討を行った(資料-2 参照)。
	水平線の上に構造物が出る離岸堤は景観上問題がある。(入江座長、新城委員)	
	シミュレーションの実施に際して、決定の条件などの季節変動を配慮すべきである。(新城委員)	H15 年度に観測された波浪データを新たに加えて、波浪条件の妥当性の検証を行い、海浜安定形状の検討を行うとともに、季節別の短期的な汀線変化の検討も行った(資料-2 参照)。
	砂が出て行かないことが大切。(仲宗根委員)	沿岸方向の砂流出は、1 ラインモデルを用い、適切な突堤延長の検討を行った。
	自然な海岸を目指すのであれば、砂の安定が重要である。(新城委員)	岸沖漂砂では、N ラインモデル、断面変化モデルを用い、荒天時の砂流出の検討を行った。(資料-2 参照)
	海浜の安定断面と底質の関係等について、現地での実測データを含め今後示してほしい。(入江座長)	既往の資料に基づき、海浜の安定断面と底質の関係について整理した(資料-2 参照)。
	大潮時における干潮時および満潮時の汀線位置を示す資料がほしい。(仲宗根委員)	大潮時の干潮時および満潮時の汀線位置を資料 - 2 に示した。

区分	議事・指摘事項	対応等
植栽	生物のエリアは原風景を踏まえ沖縄らしいゲンバイヒルガオ等の植生にしてはどうか。(新城委員)	植栽については、左記の意見を踏まえ、原風景に近いといわれている沖縄県総合運動公園沿岸部の現状植生を参考に、ゲンバイヒルガオ等を導入した植栽構成について検討を行った。(資料-3参照)
	植物は、海岸環境に強いものを選んでいますが、植栽の方法、配置についても検討してほしい。単独では生育できず、集団でのみ生育するものもある。(新城委員)	(専門家のご指導を仰ぎながら)植栽の方法、配置について検討し、資料-3に示した。
	海浜植栽をする場合うまく育つように、原風景に近いと思われる場所の土質を調査したほうがよい。(仲宗根委員)	埋立地等において必要となる植栽基盤の一般的な考え方について整理した(資料-3参照)。なお、詳細については、造園設計時に検討を行う。

平成16年度 第1回 中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会における
指示事項とその対応について

議事・指摘事項	対応等
地形変化のシミュレーション結果等、他の部会(海藻草類専門部会)における検討資料とのデータの一貫性を図る必要がある。(古川委員)	人工海浜専門部会におけるデータと、他部会におけるデータは、一貫性を図り資料作成した(資料-2参照)。
人工海浜専門部会とその他の部会(利用面)との調整が必要であり、今後、調整するための合同開催などを行う必要がある。(小濱委員)	現在、部会間の調整は事務局内で図っているが、今後の部会間の調整を含め、専門部会のあり方については、現在事務局で検討中であり、来年度以降、あらためて対応することとしたい。